

問1 アメリカ合衆国の工業発展の歴史において、ピッツバーグなどの都市が製鉄業で繁栄した背景を説明したものと、地理的・歴史的な状況から考えて最も適切なものはどれですか。（2026年 三重公立入試 類似）

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 原料となる石炭の産地に近いことに加え、五大湖の水運を利用して鉄鉱石を運び込むのに有利な立地であったため | 2. サンフランシスコなどの西海岸の都市と同様に、アジアから輸入される安価な石炭と鉄鉱石を加工する拠点となったため | 3. 自動車産業が集積するデトロイトに近いことを利用し、メキシコ湾からパイプラインで運ばれる石油を主な燃料としたため | 4. アパラチア山脈から得られる豊富な木材を燃料として、古くからの伝統的な製鉄技術を維持し続けたため |
|--|---|--|--|

問2 アメリカ合衆国のサンベルトに含まれる地域のうち、カリフォルニア州に位置し、近隣の大学や研究機関と連携することで多くのIT企業が集積した、世界的な先端技術産業の拠点を何と呼びますか。（2026年 千葉公立入試 類似）

- | | | | |
|------------|----------|-----------|----------|
| 1. シリコンバレー | 2. デトロイト | 3. ヒューストン | 4. ウォール街 |
|------------|----------|-----------|----------|

問3 アメリカ合衆国、カナダ、メキシコの3か国が、USMCA（旧NAFTAを含む）のような自由貿易協定を締結している主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 大阪公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 域内の関税を原則として撤廃することで、商品の流通を活発にし、経済成長を促進するため。 | 2. 南アメリカ諸国との経済格差を是正するために、北米共通の通貨を導入し流通させるため。 | 3. ヨーロッパ連合（EU）と同様に、加盟国間での政治的な統合と軍事同盟を強化するため。 | 4. アジア地域からの輸入品に対して一律に高い関税を課し、域内市場から完全に排除するため。 |
|---|--|--|---|

問4 世界の統計において、人口の割合が約7.6%であるのに対し、穀物生産量の割合が約18.2%と非常に高く、世界的な食料供給地としての役割を果たしている州はどこですか。最も適切なものを選びなさい。（2024年 福岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|-----------|---------|----------|-----------|
| 1. 北アメリカ州 | 2. アジア州 | 3. アフリカ州 | 4. ヨーロッパ州 |
|-----------|---------|----------|-----------|

問5 ある国の貿易統計において、輸出相手国の第1位がアメリカ合衆国であり、その割合が輸出総額の81.2パーセントに達している国があります。この国は北アメリカ大陸の南部に位置し、スペインの影響を受けた歴史からトウモロコシを主原料とする食文化を持っています。この国はどこですか。（2020年 愛知公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|--------|---------|----------|
| 1. メキシコ | 2. カナダ | 3. ブラジル | 4. コロンビア |
|---------|--------|---------|----------|

問6 アメリカ合衆国と中国の農業生産における共通点や特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2023年 北海道公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. アメリカ合衆国では、トウモロコシの主な生産地域を挟むように、その南北の地域で小麦の生産が盛んに行われている。 | 2. 中国では、降水量の多い華南地域を中心に小麦の生産が集中しており、輸出の拠点となっている。 | 3. アメリカ合衆国のグレートプレーンズは、東部沿岸の都市に近いことから、生鮮野菜を供給する近郊農業の適地となっている。 | 4. アメリカ合衆国と中国はともに、国内の食料自給を目的とした小規模な家族経営の農家が、全生産量の大部分を占めている。 |
|---|---|--|---|

問7 カナダは、多様な民族の文化を互いに尊重し合う「多文化主義（マルチカルチュラリズム）」を政策として採用しています。これに関連して、カナダで英語とともに公用語として定められている言語はどれですか。（2022年 佐賀公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|----------|---------|--------|
| 1. フランス語 | 2. スペイン語 | 3. ドイツ語 | 4. 中国語 |
|----------|----------|---------|--------|

問8 日本・アメリカ合衆国・中国・韓国の4か国を対象とした高校生のインターネット利用状況の調査において、アメリカ合衆国の特徴を説明したものと最も適切なものはどれですか。なお、ここでの「友人」とは、インターネット上のみのつきあいで、実際に会ったことのない人を指すものとします。（2017年 千葉県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 1日の利用時間が4時間以上の生徒が全体の30%を超えており、ネット上のみの友人が50人以上いる割合も20%を超えている。 | 2. 1日の利用時間が6時間以上の生徒は全体の半数を超えているが、ネット上のみの友人を持つ生徒の割合は4か国中で最も低い。 | 3. インターネットの利用時間は日本や韓国よりも短く、SNSの利用目的は学校の課題解決や学習活動に特化している。 | 4. 4時間以上の長時間利用者は全体の1割程度にとどまるが、オンラインゲームを通じて100人以上の友人と交流を持つ生徒が過半数に達している。 |
|---|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 原料となる石炭の産地に近いことに加え、五大湖の水運を利用して鉄鉱石を運び込むのに有利な立地であったため	製鉄業は重量のある石炭と鉄鉱石を大量に消費するため、それらの輸送コストが低い場所に成立します。ピッツバーグはアパラチア炭田の北端にあり、さらに五大湖を経由してミシガン州やミネソタ州の鉄鉱石を運べるルート上にあつたため、重厚長大産業の拠点となりました。デトロイトは自動車、サンフランシスコはICT（情報通信技術）やシリコンバレーに関連する都市であり、背景が異なります。
問2	答え 1 シリコンバレー	カリフォルニア州のサンフランシスコ近郊に位置するシリコンバレーは、スタンフォード大学などの研究機関との産学連携が盛んで、半導体やソフトウェア、インターネット関連の企業が多く誕生した先端技術産業の聖地です。デトロイトはかつての自動車産業の中心地、ヒューストンは宇宙産業や石油産業で知られていますが、IT産業に特化した世界的な拠点としてはシリコンバレーが該当します。
問3	答え 1 域内の関税を原則として撤廃することで、商品の流通を活発にし、経済成長を促進するため。	自由貿易協定（FTA）は、特定の国や地域の間で関税をなくしたり、サービス提供のルールを整備したりすることで、貿易をより自由に行えるようにする制度です。USMCAの場合、メキシコの安価な労働力と、アメリカやカナダの資本・技術を効率的に組み合わせることで、北米全体の産業競争力を高める狙いがあります。共通通貨の導入や軍事統合は目指しておらず、また域外の国を完全に排除することを目的としたものでもありません。
問4	答え 1 北アメリカ州	この州は、広大な土地を利用した大規模な農業が行われており、人口規模に対して生産される穀物の量が非常に多いことが特徴です。世界全体の穀物生産の約5分の1近くを占めており、他州への食料供給において重要な地位を占めています。
問5	答え 1 メキシコ	メキシコは北アメリカ大陸の南部に位置し、アメリカ合衆国と長い国境を接していることから経済的な結びつきが非常に強く、輸出の8割以上をアメリカ向けに占めています。歴史的には16世紀からスペインの植民地となった背景があり、先住民から受け継がれたトウモロコシを主食とする文化に、スペインの文化が融合した独特の食習慣が根付いています。
問6	答え 1 アメリカ合衆国では、トウモロコシの主な生産地域を挟むように、その南北の地域で小麦の生産が盛んに行われている。	アメリカ合衆国の中部地域では、中央平原を中心にトウモロコシの生産が集中し、乾燥が強まる西側のグレートプレーンズや、気候が異なる南北の地域に小麦の生産地が分布しています。一方、中国では「南稻北麦」と言われるように、比較的乾燥している東北部や華北の平原地域で小麦やトウモロコシが、温暖湿潤な南部で稲作が盛んに行われています。いずれも広大な国土を活かした適地適作が進んでおり、家族経営というよりは、企業的な大規模経営や大規模な集約農業が特徴です。
問7	答え 1 フランス語	カナダは歴史的にイギリスとフランスの両国による植民地支配を受けた背景があり、現在も英語とフランス語の二つを公用語として定めています。特にケベック州などの地域ではフランス系住民が多く、文化的な独自性を守るための政策がとられています。
問8	答え 1 1日の利用時間が4時間以上の生徒が全体の30%を超えており、ネット上のみの友人が50人以上いる割合も20%を超えている。	現代の情報化社会において、アメリカ合衆国の高校生は他国と比較してインターネットを長時間利用する傾向が顕著です。具体的には、「6時間以上（17.5%）」と「4時間以上6時間未満（15.1%）」を合わせると、1日4時間以上利用する生徒が3割を超えています。また、人間関係の面でも、ネット上のみの知人が「50～99人」と「100人以上」を合わせた割合が2割を超えており、オンラインでのコミュニケーションが活発であることがわかります。